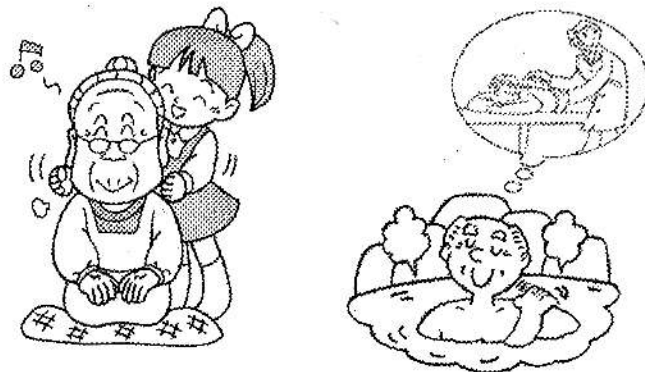


1. 当院での取り組み

日本の医療は明治維新までは指圧師（当時は按摩と言った）が漢方医と共に医療の一翼を担っていました。しかし明治維新以降の医療改革の中で、西洋医学が漢方医学に取って変わり大幅に医療制度が変更されたのです。これ以後医師になるようとする者は「西洋医学」の免許を取得しなければ、例え漢方志望でも診療は出来ないと言う制度に変わりました。現在日本に漢方医がいないのはこの制度改革で漢方医の数が激減したからです。指圧に至っては「医療の賤技」とまで卑下され、「えせ医学」として民衆からはまったく見捨てられた存在になったのです。現在でも指圧と言えば「お年寄りが受けるもの」「温泉で娯楽として受けるもの」「肩が凝ったらチョット受けるもの」…と軽い扱いを受けるのもそのためです。指圧治療院もそんな流れに迎合するかのよう施術しているのです。そんな風潮の中、昔ながらの指圧を実践することは大変でした。

事の起こりは一般患者に混じって、より重症な患者さんが増え始めたことです。ノイローゼを何とかならないか、頭痛が十年以上治らない、医者に行っても頑固な症状が取れない、毎日が気だるく不快だ、…等々。このような患者さんが増えて来ました。しかし現在の指圧ではこのような患者さんは治すことはできません。理由は簡単です。病的な症状に対処するには、これまでの「言われた所だけ」施術する式の指圧ではシンプル過ぎて対応



現在でも指圧と言えば「お年寄りが受けるもの」「温泉で娯楽として受けるもの」とのイメージが根強い。これはこれで良いのですが、しかしこれだけでは…。



最近是一般患者に混じって頭痛が十年以上治らない、医者に行っても頑固な症状が取れない、毎日が気だるく不快だ、…等々。このような患者さんが増えて来ました。

しかし現在の指圧ではシンプル過ぎてこのような患者さんを殆ど治すことはできません。

出来ないのです。そこで手間は掛かりますが、全身指圧を中心としたオーソドックスな指圧に切り替えたのです。そしてその中に「経絡（けいらく）治療」を折り混ぜました。そう、つまり明治以前まで行われていた昔のスタイルに（アレンジはしていますが…）変えたのです。その結果どうなったか。これまで難解と思われた患者さんから「治った」「軽くなった」「症状が気にならなくなった」などの反応を頂いたのです。症状の好転は一回の指圧で改善する人もいれば、五回くらいの指圧でやっと改善し始める人、またまったく変わらないと言う人も居ました。ただ傾向としては症状を訴えている期間が長いほど、また体力が弱い人ほど改善まで時間が掛かり、反対に症状を訴えて間もない人や現在元気で体力がある人は比較的早く治るようです。症状の強弱はあまり関係ありません。ただ治ると言ってもクスリのように劇的に治ると言うのではなくマイルドに治って行く感じで、体力のない患者さんや疲労しきった患者さんにはこれは向いている方法です。

2. 漢方的な指圧って何？

これは何も特別な指圧ではないのですが、どういうものなのか説明しておきましょう。ただ昔は普通に行われていたものです。現在の指圧は肌に指を押しつけ指をブルブルと震わすマッサージ的な指圧がほとんどです。し

かも患者さんの苦痛のある場所しかやらない。でもこれではダメなのです。一時的な効果はあるのですが、治るまでには行きません。それは少し学問的になりますが、まず指圧と言うのはツボ療法であるということです。的確なツボへの刺激がその効果を決定するのです。では的確な刺激を与えるためには何が必要か。それはその病気に効くツボを正しく選別する技術とツボを確実に響かす技術がまず必要なのです。当院が漢



ブルブルと震わすマッサージ的な指圧がほとんど

